



2019年11月におこなわれた机上訓練風景。ここでは災害におけるあらゆるシーンを想定してシミュレーションする
●株式会社三木製作所



工場のあちこちに張り紙をして、人が倒れていないかなど異常を確認し合う被災状況確認の訓練も実施
●株式会社三木製作所



今後の本格的なBCPへの取り組みに向けて、社内では管理職によるミーティングが頻繁におこなわれている
●株式会社オービット



製造の拠点となる島根の出雲工場。2拠点体制によるリスクマネジメントで、企業ブランドを守る
●株式会社オービット

これは千早赤阪村のお弁当屋さんが、水曜だけ八尾にも配達してくれるのでお願いしました。またそちらの社長に社内でセミナーも開いてもらいました。

三木 うちも以前は大手のお弁当屋さんに頼んでいたけれど、油物が多いうえあまり美味しくなかった(笑)。今は仕出し屋さんが、国産野菜を使ってつくる美味しいお弁当を、みんなで食べることになっています。こういうのもレジリエンスのひとつですね。

平井 それと運動も大切なので、3ヶ月に1回「ウォーキングチャレンジ」を開催しています。1ヶ月のうちに1日1万歩歩くことを5日間達成したら、賞金が出ます。「本格的にサイクリングをやっているのに歩かない」という人がいたので、この4月からは「サイクリングチャレンジ」も始めるつもりです。もうひとつ進めたいのは禁煙ですね。

三木 うちの喫煙率0%です。全社員で禁煙にしました。

平井 それは素晴らしい。今まで毎週火曜日を「禁煙努力日」にしていたのですが全然変わらないので、「禁煙手当」を出すようにしました。

西村 健康と安全のために、手を変え品を変えいろんな取り組みをされているんですね。

BCPへの取り組みは 社内の仕組みづくりにもなる。

三木 BCPに取り組んだり、さまざまな認証を取ることは社会的PRにもなりますし、西村さんが言われるように会社のウリや強みになります。取得の過程で従業員の意識も高まりますし、彼ら一人ひとりのスキルも上がってくると思うんです。もちろん災害は起こらないに越したことはありませんが、備えあれば憂いなしで、中小企業ももっとやるべきだと思います。

平井 たしかに対外的な認知活動の一環になります。会社説明会で若い人たちにしっかりした会社だと思ってもらえます。

三木 健康経営なんか特にそうですね。それと認定には更新があるので、常に意識することができます。

平井 健康経営は1年限りの認定なので、毎年取得する必要があります。

ありますから。

三木 取って終わりじゃないから仕組みとして定着する。中小企業って仕組みがないですね。何もなしのところからつくるのは大変ですが、BCPや健康経営に取り組んで、それを社内の仕組みとして持てるのもいい。

西村 平井さんは名刺を拝見すると、男女いきいき・元気宣言や健康経営のほかにも、さまざまな認証を受けられているんですね。

平井 コレクターみたいでしょ(笑)。まじめに話すと、当社の国内競合の最大手はシェアの半分以上を占める大企業です。そのような状況で、うちのような小さな会社が生き延びるには、「見えない部分」を頑張らないといけないと考えて、社長に就任したときに経営理念を変えたんですよ。BCPへの取り組みや健康経営、SDGsなども見えない部分です。こういった「見えない資源の強化戦略」を略して「MSK戦略」と呼んでいるのですが、ものづくりのかたわらでそういった精神を大切にしています。

三木 レジリエンスという言葉は東日本大震災後から、よく聞かれるようになったと思います。経営学にもレジリエントという言葉はあり、レジリエント・カンパニーを提唱されている先生もいる。それならうちは「レジリエント・町工場」を目指そうと思っています。業績がよく、しなやかで強い町工場になるための一環として、健康経営やBCPをおこなっているんです。品質のよさやものづくりへの真摯な態度、イノベーションはあって当然で、それプラスの要素としてとらえています。トータルで企業の魅力を高め、持続できる会社でありたいです。

平井 会社を長く続けるための、仕組みづくりという点では同感です。

西村 当社は10年前に会社を引き継ぎ、私が5年前に社長に就任、マイナスの状態から立ち上げてようやく安定した状況になってきたところ。地に足をつけて継続していくことを第一に、これから大阪の工場も広げる予定なので、2拠点ともに地元で貢献できる企業になりたいですね。

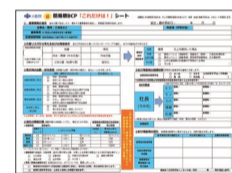
平井 私自身、BCPは近隣への社会貢献の一つだと思っているんです。ものづくり企業は大きな機械装置を所有しているので、近隣に対する責任もありますから。そして災害時には自分

たちだけではなく、工場を避難場所として使ってもらえたらと考えています。

西村 おふたりの話はこれから本格的に取り組む当社にとって、大変刺激になりました。BCPは「自分の身に降りかかったら」という不安をみんな抱えていると思うので、興味を持って自分ごととして考えられるのかなと思いました。そこで身についた対応力で、不良品が減らせたり、平常時の業務効率化など、さまざまなシーンに役立つ気がします。

モビトーク | 編集後記

今号の表紙にもなっている三木製作所さんの社屋は2019年7月に完成したばかり。その玄関先には、よく見かける「定礎」の文字が…ん!? これは電車のレールでは? 社長に何うと「線路は続くよどこまでも」にかけて、会社が永く続くことを願って埋め込みました」とのこと。「レジリエント・町工場」をめざす同社の思いは、こんなところにも表れていました。



「超 簡易版BCP「これだけは!」シート」

大阪府が中小企業等に向け作成した簡易版BCP様式。約1時間でシートの作成が可能。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/keieishien/bcp/tyoukannibanbcp.html>

TODAY'S MEMBER



大阪・島根の2拠点体制で 地震リスクへの強みと高い対応力を両立。

NC旋盤・マシニングセンタによる、鉄・ステンレス・アルミなどの精密加工を得意とし、半導体の装置などの部品製造で知られるオービット。もともと大阪・島根で製造業を営んできた企業を先代が譲り受け、現在に引き継ぐ。本社がある大阪を営業の、島根を製造の拠点としてそれぞれ運営している。大阪北部地震時には、製造拠点が大阪から離れていることによるリスク分散や事業継続面について、取引先から高い評価を受けた。さらにこの強みを活かす事業テーマで2019年、経営革新計画の承認を受けている。

株式会社オービット

東大阪市長田西5-4-23
TEL 06-4309-3553
<http://orbit-tech.co.jp/>

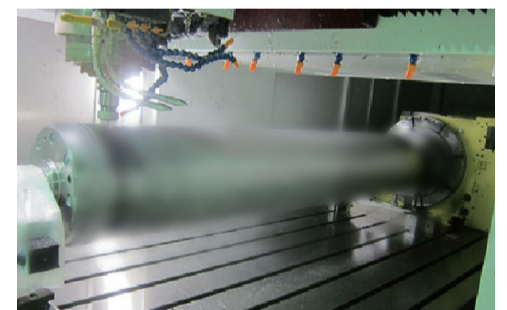


ロボット、FAライン、あらゆるジャンルの 原動力となる空気圧機器で製造業を支える。

創業以来65年、独自の空気圧機器をつくり続ける。エアーコンプレッサーでつくられた圧縮空気の流れる向きを切り替える方向制御弁や、切り替えた圧縮空気を供給して力強い直線運動を発生させるシリンダなどの駆動・制御機器。圧縮空気中に混入する水分やゴミを除去し、機器を誤作動から守るエアークリーニング機器。窒素ガス発生装置や極冷空気を発生させるジェットクーラーなどの空気圧応用機器など3つのグループで展開し、他社に先駆けた新商品開発にも積極的に取り組んでいる。

日本精器株式会社

八尾市八尾木北2-8
TEL 072-923-0481
<http://www.nihonseiki.com/>



量産の要、精密金型・エンボスロールで 新たな技術開発に挑戦し続ける。

創業65年、先代である父が鋳造用の木型からはじめ、現在は建材関連の金型・エンボスロールを製造する。天然石・木目・和紙の模様など、非常に微細な模様を高精度にデジタル加工。コンピュータでデータ編集することで工業製品に活用できるレベルに高め、建材のプレス型や模様エンボスロール、デザインモデルの全自動加工を可能にしている。2019年より「レジリエンス認証」取得に向けて取組み、環境認証(環境省)「エコアクション21」についても2013年に登録し、現在も継続中。

株式会社三木製作所

大阪市西淀川区大野1-2-20
TEL 06-6473-3414
<https://www.mikiss.co.jp/>

